

令和6年度 福島県立聴覚支援学校会津校 学校評価 アンケートまとめ

【評価者 保護者9名、教員7名】【評価基準 A: 良い、B: やや良い、C: やや不十分、D: 不十分】【意見・要望等 ○: おおむね達成できた、△: さらに取り組むべきこと、●: 課題(改善が必要)】

	今年度の取組		評 価				改善を要する事項・意見・要望等
			A	B	C	D	
I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実	1 一人一人の自立と社会参加に向けて教育的ニーズや合理的配慮について、本人及び保護者との合意形成を図り、「個別の指導計画」等を活用し、キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の充実や進路実現に努めます。	保護者	9				
		教員	4	3			
	2 交流及び共同学習等の体験的な学びを通して社会性を伸ばし、自ら考え判断して行動できる力を育てるために、保護者や相手校、市町村教育委員会と十分に連絡を取り合い、共通理解を図りながら実施するように努めます。	保護者	9				●交流の日程が、もう少し早く分かるとう助かる。(特に、下校時刻について)
		教員	2	5			●十分に行っているが、交流及び共同学習等で窮屈になっているようにも思える。
	3 「個別の教育支援計画」を活用し、保護者及び関係機関との支援体制の経過や合理的配慮を確認し、定期的な見直しを図りながら発達段階に応じた教育支援を行います。	保護者	7	2			○関係機関との連携は、とても密になっていてよかった。
		教員	3	4			
I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成	1 子ども一人一人の言語力を高めるとともに、個別最適化された学習、協働的な学習、探究的な学習へと、学びを変革し、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れながら、学力の向上に努めます。	保護者	8	1			
		教員	3	4			
	2 学習活動においてICT機器を適切な場面で効果的に活用し、幼児児童の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた学びを進め、教育の質の向上と情報活用能力の育成を図ります。	保護者	9				
		教員	3	4			
	3 地域との密接な連携を大切にし、読み聞かせや手話サークルのボランティア、移動図書館等を活用し、様々な人との触れ合いや体験を通して幼児児童の豊かな心を育てます。	保護者	9				
		教員	5	2			
I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成	1 幼児児童が、音声、手話、指文字等の多様なコミュニケーション手段を活用し、学力と言語力を高められるよう研修の充実を図り、実践力を高めます。	保護者	7	2			
		教員	4	2	1		△聴覚障がい教育の専門性を確認したり、日々の指導や支援に反映させたりして実践力を高めるために、年度初めの研修は重要である。
	2 聴覚補償、情報保障機器、音声、文字、手話、指文字等のコミュニケーション手段を適切に活用し、自分の考えを分かりやすく相手に伝える等の指導を行い、学校生活全体における言語環境を整えます。	保護者	8	1			
		教員	2	5			●研修の機会を設け、学校全体としての専門性の向上、指導力の向上に努めているが、担任・担当によって意識の差があるように感じる。補聴援助システムを含め、コミュニケーション手段を限定しないかわりについて継続して共通理解を図る必要があると考える。
	3 各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図るため、外部講師の活用や研究授業を積極的に行い、授業改善と専門性の向上に努めます。	保護者	8	1			
		教員	4	2	1		△外部講師を招聘して研究授業を実施し助言を得ることができた一方、教員同士の気付きや個々の実態に応じた授業の捉え方をシェアする時間が十分にとれなかったと感じている。 △一人一授業による研究授業を行い、当日に振り返りをするもののメリットもあると考える。

II 安全で安心な 学校づくり	1	他者の気持ちや考えに気づき、主体的に考えて行動する力を育むと共に、いじめに関する教員の研修を行い、学校全体の協力体制、指導体制を整え、いじめ等の未然防止に取り組みます。	保護者	9				
		教員	4	3			●各自、いじめを未然に防ごうかかわっているが、今年度は職員研修が不足しているように感じる。	
	2	基本的な感染症対策や校舎内外の安全点検、運営計画に基づいた医療的ケアを実施し、安心安全な学校生活を確保するとともに、個人情報及び情報セキュリティの管理を徹底します。	保護者	9				
			教員	5	2			
	3	災害や犯罪等への意識を高め、自らの判断で行動できる力を育てるために、学習活動や各種訓練等を工夫し、防災・防犯教育や放射線教育、がん教育等を充実します。	保護者	8	1			
			教員	1	6			△がん教育については、保健体育で扱う程度である。 ●放射線教育やがん教育については、今後も工夫が必要である。 ●放射線教育の位置づけを明確にしているわけではなく、扱う時間も限られていて難しい。
	4	服務倫理に関わる研修等の実施、職場のセーフティネットとしての機能の向上を図り、不祥事根絶に努めます。	保護者	9				
			教員	5	2			
III センター的機能の充実	1	地域の保健や医療、福祉や教育等の関係機関と地域支援センターが連携・協力し、乳幼児早期教育相談の充実を図ります。	保護者	8	1			
			教員	5	2			○係を主として十分に行っていると思う。 ●専任的配当教員がいない中で、係の負担は大きすぎるのではないか。
	2	地域の学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもについて、教育関係者や保健師等との連携により、一人一人に応じた支援を行うとともに、地域のニーズに応じた研修会や学習会を開催したり、情報を発信したりします。	保護者	8	1			
			教員	5	2			
	3	地域の関係機関と連携し、校内の幼児児童や保護者への支援と具体的な情報の提供を行います。	保護者	7	1	1		●保護者のPTA奉仕作業や郡山での交流会などでは、大まかな時間は教えてもらえるが、割とざっくりとした感じが見受けられる。時間の配分等で細かく教えていただけると、こちらもどう動けばいいかが分かる。
			教員	6	1			